

〔原 著〕

父親のクッキング体験教室の参加が家事育児・食事作りに及ぼす影響

高瀬 園子¹⁾、松尾 泉¹⁾、石岡真移子²⁾、葛西 静男²⁾、西沢 義子¹⁾

要 旨

本研究の目的は幼児期の子どもがいる父親6名を対象にクッキング体験教室を開催し、教室の参加が父親の食事作りに及ぼす影響を明らかにした。クッキング体験教室の内容は、食育講座、調理、試食、片付けである。教室参加前後に質問紙調査による家事育児の実態を調査し、教室1カ月後のみインタビュー調査を実施し、その内容をカテゴリ分類した。教室に参加した父親全員がお風呂、着替え、保育園の送迎の育児を実施していた。家事は全員が実施している項目はなく、食事作りは2名のみであった。父親の家事育児の実態は【育児休暇中の母親中心の家事育児】から生活スタイルの変化により【夫婦で協力した家事育児】【自分が出来る範囲での家事育児】を実施していた。食事作りは【母親が食事作りの担当】だが、【子どもの食生活の関心】があり【出来る範囲で簡単にできる食事作り】を実践していた。教室後は【料理と母親の大変さの実感】【栄養バランスを意識した調理方法の獲得】【食事作りの楽しさと意欲の高まり】がみられた。一方、【多忙のため教室参加後も食事作りに変化がない】といった課題も明らかとなった。従って、父親のクッキング体験教室の参加は栄養バランスを踏まえた調理方法の獲得や食事作りの意欲につながることから、家庭における父親の食事作りの参加に向けた効果が期待される。

キーワード：父親の料理教室、家事育児、父親の食事作り

I. はじめに

核家族世帯の増加や女性の活躍推進が成長戦略に位置づけられるなか、夫婦が協力して家事や育児を行うことが推奨されている。平成27年の「健やか親子21(第2次)」では健康行動の指標として積極的に育児をしている父親の割合が掲げられ、父親の育児参加が社会生活の中に浸透しつつある。また、親の認識や子育てに関して、従来用いられている「父性」、「母性」といった性別ではなく、父親と母親に共通する「親性」が用いられるようになってきている。大橋¹⁾は「親性」の概念を「すべての人がもっているものであり、女性と男性に共通する、自己を愛し、尊重しながら、他者(子ども)に対しても慈しみやいたわりをもつという性質である」とし、親であることを肯定的に受け止め、成長できたと認識するほど育児期の親性が高いと述べていることから、夫婦協働の育児には親性についても注目する必要がある。総務省「平成28年社会生活基本調査」によると、日本の父親の家事育児の

時間は、他の先進国よりも低い水準にとどまっており、他方母親の家事育児時間が長いことが示されている²⁾。このことから我が国の父親の家事育児役割負担は母親のそれと比べると少ないことから、父親の家事育児を促進するための方策が必要である。

父親の家事育児に関する先行研究では、父親は遊びや送迎といった育児に関わる人が多いが家事が少なく、とりわけ食事作りを実施している父親は少ないことが明らかになっている³⁻⁴⁾。父親の育児参加を推奨する取り組みとしては妊娠中からの両親学級や夫の立ち合い出産などがなされてきた。一方で家事に関する教育機会は少なく、子育て世代の家事役割においては未だに性別役割分業が残っていると考えられる。なかでも食事作りは母親が実施することが多い家事であり、子どもにとって健康的な発育・発達や将来にわたる食習慣にも影響を及ぼす。現在、内閣府による「おとう飯」始めようキャンペーン⁵⁾の取り組みに見られるように、父親が食事作りを通して、食育や家事育児に関わるのが推奨されて

1) 弘前医療福祉大学保健学部 看護学科 (〒036-8102 青森県弘前市小比内3丁目18-1)

2) 弘前医療福祉大学短期大学部 別科 調理師養成・1年課程 (〒036-8102 青森県弘前市小比内3丁目18-1)

いる。先行研究では、堀田⁶⁾は幼稚園児と父親に対する調理体験教室の食育活動における効果を検証し、非参加群と比べて、園児が家庭で「盛り付ける」行動が多くなること、父親は「料理をすることは楽しい」と感じるようになったことを示している。また、小谷ら⁷⁾は、親子を対象とした共同調理体験により親自身の応答性が高まり、子育ての肯定感が高まるという因果的プロセスを示している。

一方、親子の調理教室の参加が子育てや食育活動に及ぼす影響については示されているものの、父親向けの料理教室を開催し、その効果を検証した研究はみられなかった。幼児期の子どもは食習慣や食生活を身につける重要な時期であり、父親が食事作りに参加することは、父親の子どもの食育活動や子育てや親役割などの親性への効果が期待されている。そこで、父親を対象としたクッキング体験教室を開催することで、食事作りの促進に寄与することが出来るのではないかと考えた。

II. 研究目的

幼児期の子どもがいる父親のクッキング体験教室への参加が父親の家事育児と食事作りに及ぼす影響について明らかにする。

III. 研究方法

1. 対象

A市及びその近郊の保育園に子どもが登園している共働き世帯の父親6名とした。

2. 調査期間

2019年10月～2019年12月。

3. クッキング体験教室の概要

クッキング体験教室（以下、教室とする。）は父親の参加が可能な週末の午前中に開催した。場所はB大学の調理実習室を使用し、所要時間は3時間30分とした。教室の概要は、①食育講座（子どもの栄養・肥満）、②調理実習（ミートソーススパゲティ、野菜たっぷりスープ、千切りじゃがいも胡麻ドレッシングサラダ、濃厚チョコレートプリン）、③試食、④片付けである。教室参加には、家族の同伴を可とし家族で試食をした。父親の調理実習の間は、家族は見学をしたり、別室を用意して子どもが遊べるスペースを確保した。メニューの考案と調理実習は、共同研究者である調理師養成教員の指導の下で実施した。メニューは、野菜が多く摂取できる、主食、副菜、デザートを含めることで調理の段取りの知

識が得られる、時間内に調理試食できるものを選択した。

4. データ収集方法

無記名自記式質問紙調査は、教室開始直前と教室1か月後に実施した。インタビュー調査は教室1か月後に個別に30分から1時間程度の半構成的面接を実施し、対象者の同意を得てICレコーダーに録音した。

5. 調査内容

i. 質問紙調査

a. 基本属性（年齢、子どもの人数、職業、配偶者の就労形態）。b. 現在実施している家事育児の内容：先行研究⁸⁻¹⁰⁾を参考に家事4項目（食事、掃除、洗濯、買い物）、育児8項目（お風呂、着替え、保育園の送迎、遊び、食事、寝かしつけ、保育園の行事の参加、病気の看病）について実施している内容を複数回答で回答を求めた。c. 子どもの食育に対する認識：先行研究¹¹⁾を参考に子どもの食事について気を付けている内容6項目（栄養バランス、食事の行儀、お菓子・ジュース類、虫歯、塩分、食事の楽しさ）を複数回答で回答を求めた。d. 子育てや親役割の認識：大橋¹⁾が開発した「育児期の親性尺度」を使用した。この尺度は0～6歳児の親を想定して開発された尺度である。「親役割の状態（親役割の満足感、育児への関心・態度など）」、「親役割以外の状態（自己肯定・自己満足感、社会との関係など）」、「子どもへの認識（子どもへの愛情、子どもの様子の理解など）」の3つを下位概念としたもので33項目からなる。採点方法は、「まったくそのとおり」から「まったく違う」の5段階評定である。尺度使用に際して開発者の許可を得た。e. 教室参加1か月後のみ教室で体験した料理の家庭での実施状況を「全部作った」「一部作った」「作らなかった」の3段階で回答を求めた。

ii. インタビュー調査

a. 家事育児の実態：質問紙調査で回答を求めた家事4項目、育児8項目について具体的に実施している内容、実施の有無の理由。

b. 教室参加の感想：料理の内容、調理方法について。

c. 教室参加後の食事作り：教室で体験した料理の家庭での実施の有無とその理由、教室後の食事作りの実施について。

6. データ分析

i. 調査用紙のデータ分析

量的データは記述統計、対応のあるt検定で、 $p < .05$ を有意差ありとし、データ分析にはSPSS ver.26を使用した。

ii. インタビューのデータ分析

インタビュー調査については質的帰納的分析を行った。インタビューの録音内容から逐語録を作成し、語られた内容を要約しコードを付けた。コードの類似点、相違点を比較し、共通性や関連性のあるものを集め、サブカテゴリを抽出した。サブカテゴリの共通性や関連性から共通する名前をつけてカテゴリを抽出した。分析にあたり研究者間で確認することにより信頼性、妥当性を確保した。

7. 倫理的配慮

2施設の保育園の園長に研究の趣旨を説明し、教室参加の応募用紙の配布と回収を依頼した。対象者には口頭と書面にて研究の概要を説明し、研究参加は任意であること、途中での辞退は可能であること、匿名性の保持、個人情報保護を説明し研究同意書に署名を得た。本研究は、弘前医療福祉大学研究倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号：2019-7）。

IV. 結果

1. 対象者の属性

教室に参加した研究対象者の属性を表1に示す。

対象者の平均年齢は 38.3 ± 4.4 歳であった。対象者全員の配偶者は正規職員であった。全員が教室の参加は初めてであった。

表1 対象者の属性

| | | n=6 |
|--------|---------|------------------|
| 年齢（歳） | | 38.3 ± 4.4 歳 |
| 子どもの人数 | 1人 | 4 |
| | 2人 | 2 |
| 職業 | 会社員・公務員 | 5 |
| | 自営業 | 1 |
| 配偶者の職業 | 正規職員 | 6 |

2. 対象者の親性尺度得点と家事育児の内容

対象者の親性尺度得点と家事育児の内容を表2に示す。

表2 対象者の親性尺度得点と家事育児の内容

| | | n=6 | | |
|---------------------------------|-----------|---------------------|---------------------|------|
| | | 教室前 人 平均値(±)標準偏差 | 教室後 人 平均値(±)標準偏差 | p値 |
| 親性尺度 | 親役割の状態 | 59.0 ± 6.4 | 56.2 ± 5.8 | n.s. |
| | 親役割以外の状態 | 38.0 ± 4.4 | 37.0 ± 3.6 | n.s. |
| | 子どもへの認識 | 45.0 ± 6.0 | 44.0 ± 4.6 | n.s. |
| 育児の実態 | お風呂 | 6 | 6 | |
| | 着替え | 6 | 6 | |
| | 保育園の送迎 | 6 | 6 | |
| | 遊び | 5 | 6 | |
| | 寝かしつけ | 5 | 6 | |
| | 保育園の行事の参加 | 5 | 6 | |
| | 病気の看病 | 5 | 3 | |
| | 食事 | 4 | 4 | |
| 家事の実態 | 洗濯 | 5 | 6 | |
| | 掃除 | 5 | 5 | |
| | 買い物 | 3 | 4 | |
| | 食事 | 2 | 2 | |
| 子どもの食事で 気を付けている内容 | 食事中的行儀 | 5 | 5 | |
| | 食事の楽しさ | 4 | 2 | |
| | 栄養バランス | 3 | 2 | |
| | お菓子・ジュース類 | 2 | 2 | |
| | 虫歯 | 1 | 4 | |
| | 塩分 | 1 | 0 | |
| クッキング教室で 体験した料理の 家庭での実施状況 | 全部作った | | 0 | |
| | 一部作った | | 4 | |
| | 作らなかった | | 2 | |

対応のあるt検定

対象者の親性尺度の下位尺度の得点（平均点±標準偏差）は、教室前は、「親役割の状態」59.0±6.4点、「親役割以外の状態」38.0±4.4点、「子どもへの認識」45.0±6.0点。教室後は「親役割の状態」56.2±5.8点、「親役割以外の状態」37.0±3.6点、「子どもへの認識」44.0±4.6点であり、教室前後の下位尺度得点の有意差は認められなかった。教室前後ともに育児は、全員がお風呂、着替え、保育所の送迎を実施していた。家事は洗濯、掃除はほぼ全員が実施していた。食事は教室前後では変化がなく2名が実施していた。子どもの食生活で気を付けていることは5名が食事時の行儀であり、4名が食事時の楽しさであった。クッキング教室で体験した料理の家庭での実施状況は、4名が体験した料理の一部を作っていた。

3. 家事育児と食事作りの実態

父親の家事育児の実態について表3に示す。

以下、カテゴリを【 】、サブカテゴリを〈 〉、コードを「 」で示す。

「育児休暇中は日中、ほぼ母親がやっていた」、「自分は仕事があるので母親がやっていた」、「両親学級や育児サークルには参加したことがない」などの11コードより〈産休休暇中は母親が家事育児をする〉、〈家事育児に関する講座の参加はない〉の2サブカテゴリ、【育児休暇中の母親中心の家事育児】のカテゴリが抽出された。

「子どもが産まれてから家事を手伝う」、「母親が職場に復帰してから家事が大変になった」などの48コードより〈家事を夫婦で協力する〉、〈子どもの誕生と母親の

職場復帰から家事を手伝う〉、〈子どもの世話を夫婦で協力する〉の3サブカテゴリ、【夫婦で協力した家事育児】のカテゴリが抽出された。

「掃除は細かいところが苦手である」、「離乳食は作らなかった」、「健診など子どもの行事に行った」などの17コードより〈苦手な家事がある〉、〈離乳食は作らなかったがミルク作りや食べさせることができる〉、〈家事を段取り良く出来る〉、〈子どもの行事に参加する〉の4サブカテゴリ、【自分が出来る範囲での家事育児】のカテゴリが抽出された。

「母親が一週間分のメニューを決めて買い物している」、「実家住まいだったのでやったことがない」などの15コードより〈母親がメニュー決め、買い物、食事作りを担当する〉、〈独身の頃から料理する機会が少ない〉の2サブカテゴリ、【母親が食事作りの担当】のカテゴリが抽出された。

「片付けはほぼ100%やっている」、「簡単な焼きそば、焼うどん、野菜も切ってあるものを使う」、「夕食は早く帰ってきた方がしている」、「鍋や焼けばいいものを作る」、「平日は時間がないので出来合いの物を食べさせる」などの37コードより〈食事の後片づけや食器洗いは行う〉、〈仕事や生活のスタイルに合わせて夫婦で分担する〉、〈簡単な料理を作る〉、〈総菜を買って食べる〉、〈アプリを活用しながら料理を作る〉の5サブカテゴリ、【出来る範囲で簡単にできる食事作り】のカテゴリが抽出された。

「カレーだと野菜も食べる」、「ごはんを食べなくなるのでお菓子は食べさせない」などの17コードより〈子

表3 家事育児と食事作りの実態

| カテゴリ | サブカテゴリ | コード数 |
|------------------|------------------------------|------|
| 育児休暇中の母親中心の家事育児 | 産休育児休暇中は母親が家事育児をする | 11 |
| | 家事育児に関する講座の参加はない | |
| 夫婦で協力した家事育児 | 家事を夫婦で協力する | 48 |
| | 子どもの誕生と母親の職場復帰から家事を手伝う | |
| | 子どもの世話を夫婦で協力する | |
| 自分が出来る範囲での家事育児 | 苦手な家事がある | 17 |
| | 離乳食は作らなかったがミルク作りや食べさせることができる | |
| | 家事を段取り良く出来る | |
| | 子どもの行事に参加する | |
| 母親が食事作りの担当 | 母親がメニュー決め、買い物、食事作りを担当する | 15 |
| | 独身の頃から料理する機会が少ない | |
| | 食事の後片づけや食器洗いは行う | |
| 出来る範囲で簡単にできる食事作り | 仕事や生活スタイルに合わせて夫婦で分担する | 37 |
| | 簡単な料理を作る | |
| | 総菜を買って食べる | |
| | アプリを活用しながら料理を作る | |
| 子どもの食生活の関心 | 子どもの栄養バランスに気をつけた調理の工夫をする | 17 |
| | 間食に気をつける | |

どもの栄養バランスに気をつけた調理の工夫をする)、
〈間食に気をつける〉の2サブカテゴリ、【子どもの食生活の関心】のカテゴリが抽出された。

4. 教室参加後の食事作り

教室参加による変化について表4に示す。

「作ってみたら楽しかった」、「家族が試食したときに美味しいって言ってくれた」、「子どもが食べるのを見るとうれしくなる」、「休みの日に作った」などの28コードより〈教室の参加は楽しい〉、〈家族が美味しいと食べてくれる〉、〈休日の料理作りのきっかけとなる〉より3サブカテゴリ、【食事作りの楽しさと意欲の高まり】のカテゴリが抽出された。

「普段より品数が多くて贅沢であると思った」、「野菜を炒めると甘いことを知った」、「手を加えるものを作ってみたい」、「野菜が多かった」などの21コードより〈基本的な調理方法や経験のない料理のレシピを知る〉、〈教室参加をきっかけに手を加えた料理を作りたい〉、〈栄養バランスの意識づけになる〉の3サブカテゴリ、【栄養バランスを意識した調理方法の獲得】のカテゴリが抽出

された。

「普段、一から作ることをしないので大変である」、「作ってくれるのはありがたいと思う」などの15コードより〈食事作りを経験して母親の大変さを実感する〉、〈切ったり、品数を作る料理が大変である〉の2サブカテゴリ、【料理と母親の大変さの実感】のカテゴリが抽出された。

「料理教室に参加してからも料理する機会が増えていない」、「時間がかかる」、「忙しくて出来なかった」などの6コードより〈教室参加後の食生活や食事作りに変化がない〉、〈多忙のため時間がかかる料理は出来ない〉の2サブカテゴリ、【多忙のため教室参加後も食事作りに変化がない】のカテゴリが抽出された。

V. 考察

1. 父親の家事育児の実態

父親の家事育児・食事作りの実態と教室参加による食事作りについて図1に示す。

分析を通して明らかになった研究対象者の家事育児の

表4 教室参加後の食事作り

| カテゴリ | サブカテゴリ | コード数 |
|-----------------------|-------------------------|------|
| 食事作りの楽しさと意欲の高まり | 教室の参加は楽しい | 28 |
| | 家族が美味しいと食べてくれる | |
| | 休日の料理作りのきっかけとなる | |
| 栄養バランスを意識した調理方法の獲得 | 基本的な調理方法や経験のない料理のレシピを知る | 21 |
| | 教室参加をきっかけに手を加えた料理を作りたい | |
| | 栄養バランスの意識づけになる | |
| 料理と母親の大変さの実感 | 食事作りを経験して母親の大変さを実感する | 15 |
| | 切ったり、品数を作る料理が大変である | |
| 多忙のため教室参加後も食事作りに変化がない | 教室参加後の食生活や食事作りに変化がない | 6 |
| | 多忙のため時間がかかる料理は出来ない | |

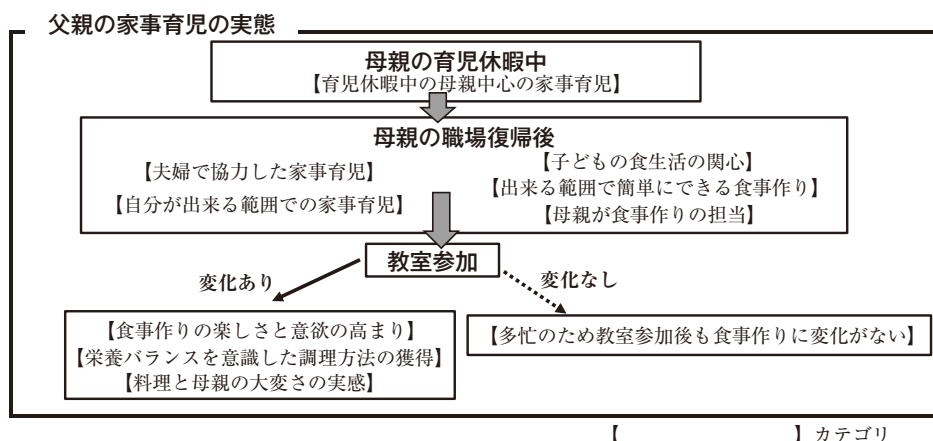


図1 父親のクッキング体験教室への参加が父親の家事育児と食事作りに及ぼす影響

実態は、第1に【育児休暇中の母親中心の家事育児】から母親の職場復帰などの生活スタイルの変化により【夫婦で協力した家事育児】へと移行していたことである。第2に【自分が出来る範囲での家事育児】に取り組み、食事作りについては【母親が食事作りの担当】であることが多いが、【子どもの食生活への関心】があり【出来る範囲で簡単にできる食事作り】を実践していたことである。

対象者は全員共働きであるが育児休暇中は母親が家にいるため【育児休暇中の母親中心の家事育児】といった母親の家事育児が大きい。大野¹³⁾の研究でも夫の家事分担率は妻の継続フルタイム群が多いことから、〈子どもの誕生と母親の職場復帰から家事を手伝う〉というライフイベントの影響により必然的に家事育児を担い、【夫婦で協力した家事育児】のスタイルが確立されていったと推測される。なかでも子どもの送迎、入浴、洗濯、掃除などの【自分が出来る範囲での家事育児】を実施していた。服部⁴⁾、柳原¹²⁾の研究においても父親は家事に比べ、育児を実施し、Horii³⁾、服部⁴⁾の研究では、お風呂、保育園の送迎、遊びの育児を実施している父親が多く、本研究においても同様の傾向がみられていた。また、研究対象者の親性尺度の得点が先行研究¹⁾と比較すると全ての下位尺度で得点が高かった。これは対象者が少ないこと、共働き世帯は家事育児の分担率が高く、家事育児に意欲が高い対象者が参加した可能性もあり、今後検証が必要である。家事のなかでも食事を実施する父親は少なかった。食事は献立を考え、買い物、調理といった一連のプロセスがあり、これらを母親が担うことで【母親が食事作りの担当】となると考えられる。その一方で、父親は片付けといった食事作りの一部を担っていた。さらに父親も平日は仕事をしていることから簡単に調理出来るものや、総菜やカット野菜、アプリ等を活用して【出来る範囲で簡単にできる食事作り】を実施していた。現在は、調理方法を知らなくてもアプリ等の活用やカット野菜など簡単に調理できる品物を活用することで父親も食事作りに参画することが容易となっている。また、【子どもの食生活への関心】がみられ、〈離乳食は作らなかったがミルク作りや食べさせることが出来る〉とあり、子どもが小さいときから子どもの食事に携わっていたことが窺える。特に幼児期は食習慣を獲得する時期でもあり父親が子どもの食事に関わることは、子どもの食育に関する認識に影響を及ぼすと推測される。

2. 教室参加が父親の家事育児や食事作りに及ぼす影響

教室参加後の食事作りについて分析を通して明らかになったことは、第1に教室に参加したことで【料理と母親の大変さの実感】【栄養バランスを意識した調理方法の獲得】【食事作りの楽しさと意欲の高まり】が抽出さ

れた。第2に、【多忙のため教室参加後も食事作りに変化がない】といった今後の課題も明らかとなったことである(図1)。また、研究対象者の教室前後の親性尺度の下位尺度得点には有意差がみられず、家事育児の実態も変化がなかったことが示された(表2)。教室は1回のみ開催であったこともあり家事育児の実践や親性に関してはあまり影響を及ぼさなかったと考えられる。一方、教室で体験した料理の家庭での実施状況では4名が料理の一部を作っていたことから、教室の参加が料理をするひとつのきっかけとなったと推測される。

対象者は【母親が食事作りの担当】であり、教室参加により【料理と母親の大変さの実感】から、今後、家事を促すことが出来るのではないかと推測される。今回の対象者は日頃から家事育児を夫婦で分担しているため、お互いの家事育児を体験することは夫婦の家事育児役割の見直しや再構築にもつながることが出来るのではないかと考えられる。

食事作りに参加している父親は、【出来る範囲で簡単にできる食事作り】をしているため、教室で実施したような野菜を切ったり、炒めたりと一から作る料理と4品を作る料理の経験がほとんどなく〈切ったり、品数を作る料理が大変である〉ことが明らかとなった。父親は普段は多忙のため生活スタイルにあった食事作りをしていることが窺える。教室で実施した4品全てを作った父親はいなかったが、〈教室参加をきっかけに手を加えた料理を作りたい〉という教室参加後の影響がみられた。また、父親は【子どもの食生活への関心】があり、子どもの食生活で気を付ける内容は食事中的行儀や栄養バランスなどがあつた。今回の教室では食育講座があり、野菜を多く取り入れたメニューであることから【栄養バランスを意識した調理方法の獲得】により普段の簡単な食事作りから栄養バランスを意識した食事作りへと影響を及ぼすのではないかと考えられる。さらに教室には家族が参加したことで〈家族が美味しいと食べてくれる〉といった家族からの肯定的な反応は父親の【食事作りの楽しさと意欲の高まり】に影響すると考えられる。小平¹⁴⁾らは、家事動機づけの側面について家事行動に対して家族が反応したり、感謝の気持ちを伝えるような家庭の環境によっても促されることを指摘している。このことから、家族からの反応は父親の食事作りといった家事を促進する要因となると推測される。しかし、【多忙のため教室参加後も食事作りに変化がない】父親もいた。父親は多忙のため、今後は時間短縮で簡単な食事作りが出来るような教室プログラムの必要性が示唆された。とりわけ幼児期の子どもの食生活を獲得する時期でもあり、子どもの成長発達を踏まえ栄養バランスを意識した簡単な料理を学ぶための教室の開催を検討する必要性が示唆された。

VI. 結語

父親の家事育児の実態は【育児休暇中の母親中心の家事育児】であるが母親の職場復帰などの生活スタイル変化により【自分が出来る範囲での家事育児】を実施することで【夫婦で協力した家事育児】を行っていた。父親の食事作りの実態は【母親が食事作りの担当】であるが【子どもの食生活の関心】があり【出来る範囲で簡単にできる食事作り】を行っていた。クッキング体験教室による父親に及ぼす影響は【料理と母親の大変さの実感】【栄養バランスを意識した調理方法の獲得】【食事作りの楽しさと意欲の高まり】がある一方で、【多忙のため教室参加後も食事作りに変化がない】といった今後の課題も明らかとなった。

VII. 本研究の限界と課題

本研究の対象者は6名と少ないことから研究結果には限界がある。また、対象者は母親が正規職員として就業しており、専業主婦やパートといった家庭環境の違いによる影響を検討する必要がある。また、母親の調査を実施することでクッキング体験教室の参加が父親と母親それぞれの家事育児に及ぼす影響も調査する必要がある。

本論文は第46回日本看護研究学会学術集会及び第67回日本小児保健協会学術集会にて発表した内容を加筆修正したものである。

謝辞：調査にご協力いただきましたお父様とご家族様、保育所の職員の方、青森県立保健大学の尾崎麻理先生に心より感謝申し上げます。本研究は弘前医療福祉大学学長指定研究により行われた。

責任分担：高瀬園子は、研究責任者として、研究の統括、調理補助、インタビュー、データ解析、論文執筆を行った。松尾泉は、調理補助、インタビュー、データ解析を行った。石岡真移子は、メニュー考案、調理指導を行った。葛西静雄は調理指導を行った。西沢義子は、食育教室講義、データ解析、論文執筆指導、調理補助を行った。

本研究は、開示すべき利益相反状態は含まれていない。

文献

- 1) 大橋幸美, 浅野みどり: 育児期の親性尺度の開発: 信頼性と妥当性の検討. 日本看護研究学会雑誌. 33 (5): 45-53, 2010.
- 2) 内閣府男女共同参画局仕事と生活の調和推進室: 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)レポート2017(概要)多様で柔軟な働き方で、みんなが変わる、社会が変わる ～はじめの一步は男性の家事・育児・介護から!～. 共同参画. 111: 2-5, 2018.
- 3) Horii M, Ishida M, Obashi Y, et al.: Study on Childcare and Housework by Working Couples (1). 富山医科薬科大学看護学会誌. 3: 51-60, 2000.
- 4) 服部律子: 0～2歳児の父親の家事育児行動と母親の健康との関連. 母性衛生. 43(1): 43-50, 2002.
- 5) 内閣府男女共同参画局. “おとう飯始めようキャンペーン” <http://www.gender.go.jp/public/otouhan/index.html> (最終閲覧日: 2022/03/08)
- 6) 堀田千津子: 幼稚園児と父親に対する食育活動—調理体験教室における効果—. 日本食育学会誌. 8 (1): 19-27, 2014.
- 7) 小谷恵, 田島信元, 三木陽子, 他.: 共同調理体験が親の応答性・子育てへの肯定感の発達に及ぼす影響とそのプロセスの検討. ストレスマネジメント研究. 14(2): 91-99, 2018.
- 8) 山口咲奈枝, 佐藤幸子, 遠藤由美子: 未就学児をもつ父親の育児行動と母親の育児負担感との関連. 母性衛生. 54(4): 495-503, 2014.
- 9) 中山美由紀, 光枝愛: 1歳6カ月児をもつ母親に対する父親の育児支援行動. 母性衛生. 44(4): 512-520, 2003.
- 10) 高瀬佳苗, 河口てる子: 3ヵ月児をもつ父親の育児行動と育児に関する学習および態度との関連. 日本赤十字看護学会誌. 5(1): 60-69, 2005.
- 11) 白木裕子: 幼児をもつ保護者の食生活と食育への取り組みとの関連. 日本小児看護学会誌. 21(3): 1-7, 2012.
- 12) 柳原真知子: 父親の育児参加の実態. 天使大学紀要. 7: 47-56, 2007.
- 13) 大野祥子, 田矢幸江, 柏木恵子: 男性の家事分担を促進する要因. 発達研究. 17: 53-68, 2003.
- 14) 小平英志, 青木直子, 速水敏彦: 成人女性の家事動機づけを規定する個人的・環境的要因の探求—主観的幸福感との関連もふまえて—. 現在と文化 日本福祉大学研究紀要. 139: 1-19, 2019.

Effects of fathers' participation in cooking classes on meal preparation

Sonoko Takase¹⁾, Izumi Matsuo¹⁾, Maiko Ishioka²⁾, Shizuo Kasai²⁾ and Yoshiko Nishizawa¹⁾

1) Hirosaki University of Health and Welfare, School of Health Sciences, 3-18-1 Sanpinai, Hirosaki, Aomori, 036-8102 Japan

2) Hirosaki University of Health and Welfare Junior College, 3-18-1 Sanpinai, Hirosaki, Aomori, 036-8102 Japan

Abstract

In this study, we clarified the effects of fathers' participation in cooking classes on meal preparation. We conducted a cooking class for six fathers with young children. The lessons included dietary education for children, cooking, tasting, and cleaning up. We also conducted a questionnaire survey before and after participation in the class and an interview survey one month after participation to investigate the actual situation of housework and childcare. We analyzed the details of the interview and classified them into several categories. All fathers pick up their children from their nursery school, help them take a bath, and change their clothes. However, only two fathers prepare a meal for their children. [wives' participation in housework and childcare during parental leave] has changed to include fathers' participation in housework and childcare as well so that they can [cooperate as a couple]. Lifestyle changes require [fathers to participate in housework and childcare as per his ability]. Previously, [wives would be in charge of preparing meals], but fathers had an [interest in children's eating habits] and practiced [easy cooking]. After participating in the cooking class, fathers [understood the struggles of wives in preparing food], they [learned a cooking method that ensures nutritional balance], and [found cooking fun and was motivated to cook]. However, despite the motivation to cook, [there was no change in fathers' participation in meal preparation because they were busy]. Therefore, participation in cooking classes leads fathers to learn cooking methods that ensure nutritional balance and also motivates them to cook. Future studies should analyze the effect of fathers' cooking at home.

Keywords: cooking class for fathers, housework and childcare participation, meal preparation